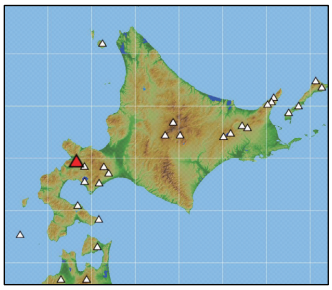
17. ニセコ　Niseko



北緯 42° 53′ 07″　東経 140° 38′ 26″　標高 1,116m(イワオヌプリ)
(標高点・独自に計測)
北緯 42° 52′ 30″　東経 140° 39′ 32″　標高 1,308m(ニセコアンヌプリ)
(三角点・似古安岳)

手前からイワオヌプリ、ニセコアンヌプリ、羊蹄山　北西側上空から
2012 年 6 月 28 日　国土交通省北海道開発局撮影

概要

北海道南西部に位置し、東西 25km、南北 15km に分布するニセコ火山群は、侵食が進んでいる雷電火山、ワイスホルン火山、目国内岳(めくんないだけ)火山、岩内岳(いわないだけ)火山と火山地形を保存している白樺火山、シャクナゲ岳火山、ニセコアンヌプリ火山、チセヌプリ火山、ニトヌプリ火山、イワオヌプリ火山からなる（広川・村山，1955；斉藤ほか，1956；大場，1960)。ニセコの活動は約 200 万年前に開始し、安山岩質(SiO_2量は 53.0～62.2 wt.%)の溶岩流や溶岩ドームを主体とするが、山麓には火砕流堆積物や岩屑なだれ堆積物が認められる（堀ほか，1986；中川ほか，2010)。最新の火山活動は、イワオヌプリ火山で、溶岩流、溶岩ドーム、火砕流堆積物と降下火砕堆積物からなる（中川ほか，2010)。

写真

イワオヌプリ山頂部の火口　南西側上空から　2012 年 6 月 28 日　国土交通省北海道開発局撮影

手前から五色温泉、イワオヌプリ　南側上空から　2012 年 6 月 28 日　国土交通省北海道開発局撮影

地形図

図 17-1　ニセコの地形

国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図(岩内)及び数値地図 50m メッシュ(標高)

噴火活動史

・過去１万年間の噴火活動

チセヌプリ、ニトヌプリ、イワオヌプリ火山は新鮮な火山地形を保つことから、完新世火山である可能性が指摘されている。しかし、チセヌプリ、ニトヌプリからは、放射年代値などは得られていない。イワオヌプリ火山が最新の火山活動で形成され、江戸時代後半や 20 世紀初頭には山頂部で噴気活動があったことが記録されている(田中館, 1918;及川, 2011)。

イワオヌプリ火山起源の降下火砕堆積物直下の土壌から約 7000 年前の噴火年代が得られているが、測定試料の炭素含有量が低いことから真の年代値より新しく出ている可能性がある（奥野, 2003)。

噴火年代	噴火場所	噴火様式	主な現象・マグマ噴出量
7←→6.8ka	イワオヌプリ火山	水蒸気噴火→マグマ噴火	ニセコ・イワオヌプリ１テフラ噴火：NsIw-1 直下の腐植土の年代（奥野,2003)。奥野（2003）はこの腐植土に含まれる炭素量がごくわずかであることから、実際の年代よりも新しく出ている可能性を指摘している。

※噴火イベントの年代、噴火場所、噴火様式等については、(独)産業技術総合研究所の活火山データベース(工藤・星住, 2006-)を参考に、文献の追記を行った。なお、年代は暦年代で示す。表中の「ka」は「1000 年前」を意味し、西暦 2000 年を 0ka として示した。
A←→B：A 年から B 年までの間のどこかで起こった噴火イベント

・有史以降の火山活動

記録に残る火山活動はない。

近年の火山活動

羊蹄山　地震活動を参照。

防災に関する情報

①火山防災協議会

なし

②火山ハザードマップ等

なし

③避難実績及び入山規制等の実績

いずれもなし

社会条件等

①人口

倶知安町：	15,354 人	ニセコ町：	4,709 人
蘭越町：	5,332 人	岩内町：	14,743 人
共和町：	6,561 人		

（平成 23 年 10 月 31 日現在）

②国立・国定公園・登山者数等

国定公園(ニセコ積丹小樽海岸国定公園)

・倶知安町： 1,499,800 人　　・ニセコ町： 1,457,600 人

・蘭越町： 817,100 人　　・岩内町： 449,200 人

・共和町： 196,700 人

(北海道観光局　平成 22 年度北海道観光入込客数調査結果より)

年間登山者数： イワオヌプリ：3,551 人、アンヌプリ：5,364 人、計 8,915 人

(H22 登山者届数より)

③付近の公共機関

機関・部署名	所在地	電話番号
蘭越町役場	磯谷郡蘭越町 258-5	0136-57-5111
ニセコ町役場	虻田郡ニセコ町字富士見 47	0136-44-2121
倶知安町役場	虻田郡倶知安町北 1 条東 3-3	0136-56-8000
共和町役場	虻田郡共和町南幌似 38-2	0135-73-2011
岩内町役場	岩内郡岩内町字清住 258	0135-62-1011

④主要交通網

・国道 5 号線、国道 276 号線、道道 58 号線、道道 66 号線　・JR 函館本線

⑤関連施設

なし

関係する主な気象官署

機関・部署名	所在地	電話番号
札幌火山監視・情報センター	(札幌管区気象台) 札幌市中央区北 2 条西 18 丁目 2	011-611-2421

気象庁および大学等関係機関の観測網

羊蹄山　観測点配置図を参照

引用文献

広川　治・村山正郎 (1955) 5 万分の 1 地質図幅「岩内」及び同説明書. 地質調査所, 26p.

堀　昌雄・他 (1986) 全国地熱資源総合調査の地域レポート (1) ニセコ地域 (火山性熱水対流系地熱タイプ (1)). 地熱エネルギー, **11**, 340-368.

中川光弘・他 (2010) 8.2.8 ニセコ火山群. 日本地方地質誌 1　北海道地方, 日本地質学会 (編), 朝倉書店.

及川輝樹 (2011) 江戸時代における北海道の噴煙活動と噴火活動の関係. 日本火山学会講演予稿集, 2011 年秋季大会, 70.

奥野　充 (2003) ニセコ・イワオヌプリ, 大雪山・旭岳, 屈斜路・アトサヌプリにおける最新噴火の年代学的研究, 北海道における完新世火山の火山活動特性の評価, 平成 12 年度～平成 14 年度科学研究費補助金研究成果報告書, 13-23.

大場与志男 (1960) ニセコ火山群の岩石について. 地質学雑誌, **66**, 788-799.

斉藤昌之・他 (1956) 5 万分の 1 地質図幅「留寿都」及び同説明書. 北海道開発庁, 33p.

田中館秀三 (1918) 岩雄登円頂丘と硫黄鉱床. 地学雑誌, **25**, 231-240.